



節分には鬼がつきものですが、大阪府茨木市にはあちこちに鬼の絵や像があります。「茨木童子」です。

茨木童子は平安時代に大江山を本拠に京都を荒らし回ったとされる「鬼」ですが、茨木市街地のあちらこちらでは可愛らしく描かれています。

「鬼は外〜」っていうくらい「鬼」には悪いイメージがあります。でも「鬼」には「荒らぶる神、子孫を祝福する祖先の霊」という意味もあるそうです。

「鬼」を遠ざけずに味方につけられたら、そりゃ心強いですよね。

高校時代、僕たち生徒から「鬼」と呼ばれていた先生がいました。金棒は持っていませんでしたが竹刀を持っていた体育の先生です。

高一の時、「柿野、髪が長いな」と言われハサミで前髪を切られました。(>_<)

無造作に短く切られたので、その後僕は仕方なく五分刈りの坊主になりました。(+_+)

でも結局、僕は高校三年間坊主頭で過ごしたので、きっとまんざらでもなかったのでしょう。それに僕はその怖い「鬼」のことは嫌いではなかったのだと思います。

その「鬼」はラグビー部の監督をしていました。(僕は帰宅部でしたけど(^^ゞ)

僕が社会人になってしばらく経った頃だったと思いますが、花園出場(高校ラグビー全国大会)を果たした母校の応援に行ったとき、「鬼」と会いました。



少し歳をとった「鬼」は、「お一立派になったなあ！」と嬉しそうに声をかけてくれました。

その時、「鬼」の目にうっすら涙が見えたような気がしました。

その数年後、「鬼」が定年退職した時、ラグビーマガジンの巻末に写真入りでインタビューが掲載されました。20年以上前のその本は、変色しながらも今でも自宅の本棚にあります。

僕の地元宮崎県高鍋町のキャッチコピーは「歴史と文教の町」。勉強嫌いで塾も行ったことがない僕は、地元

にいた頃はあまり感じていませんでしたが、人材育成には昔から熱心な土地柄だったようです。(VωV)

僕が生まれるずっと前、江戸時代中期のこと。高鍋藩の藩主の次男が、領地返上寸前の米沢藩に養子入り

しました。僕が尊敬しているその人は、後に名君と呼ばれた「上杉鷹山」です。

『為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり』

鷹山公は人材育成に関して含蓄のある言葉を残していて、僕も自戒を込めてかみしめています。



先日サッカーオリンピックアジア最終予選を見ていたら、代表チームのGKに懐かしい名前がありました。

あれは6・7年前のサッカーの高校選手権。大阪代表の関大一高と青森山田の一戦は、関一が後半の44分から2点を返し同点に追いつくという劇的な試合。PK戦までもつれた熱戦でした。そのPK戦で鬼神のように青森山田のゴールマウスを守りビッグセーブを連発したのが、GKの櫛引(くしびき)選手。珍しい名前ということもあって印象に残っていました。

あの高校生だった櫛引選手が順調に成長し、世界を相手に日本を代表して戦っています。

なるほど。おっちゃん、若者の成長を感じたとき、幸せな気持ちになるものです。

嬉しそうに声をかけてくれたあの時の「鬼」の気持ち、少しわかったような気がします。

この年末も同級生と花園に母校の応援に行きました。

でも「鬼」も高齢。残念ながらその姿は応援スタンドにもありませんでした。

「鬼の霍乱」じゃなければいいと願っています。

